

# 言語行動と関係フレーム理論

## スキナーによる言語行動

- スキナーは、話し手の行動が取るトポグラフィー(形態と特質)と、行動随伴性(先行事象および結果との関係)で、言語行動を以下のような基本的なタイプに分類した。
  - マンド、タクト
  - エコーイック、読字行動、書き取り、書き写し
  - イントラバーバル
  - オートクリティック

## 言語行動の2つの定義

- スキナーによる言語行動
  - 同じ言語共同体に属する他の成員のオペラント行動を介した強化によって形成・維持されているオペラント行動。そして、他の成員による強化をもたらすオペラント行動は、その言語共同体特有の行動随伴性のもとでオペラント条件づけされたものである。
- 関係フレーム理論による言語行動
  - 出来事または刺激を、3つの基準(相互的内包、複合的内包、刺激機能の変換)に従って、関係づけること。

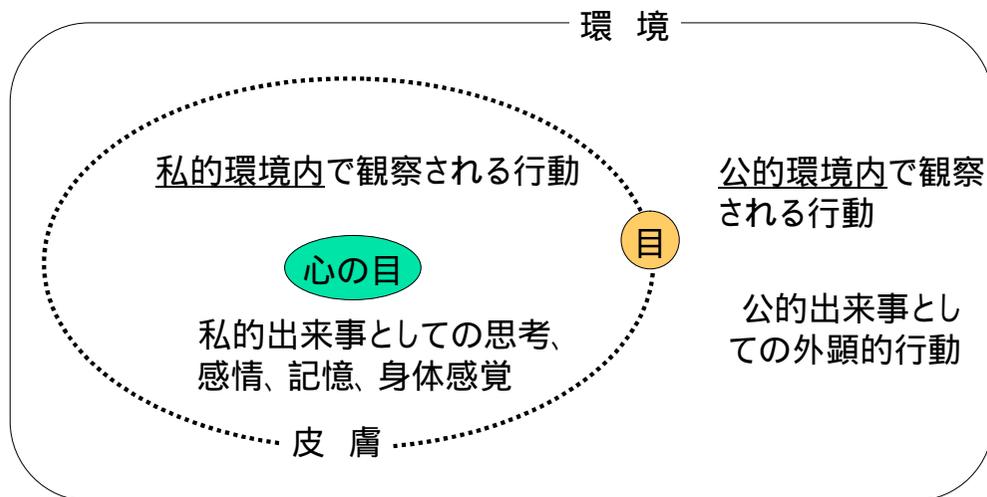
## マンドとタクト

- マンド
  - 特定の強化子によってコントロールされ、その同じ強化子を指定するような言語行動(例、「お水ちょうだい」)。
  - 「自分で物理的に行動することなしに受け取ることを可能にする」機能をもつ。
  - 先行事象は聞き手の存在(弁別刺激)と、結果を話し手にとって好ましいものにするような確立操作(例、喉の湯き)。
- タクト
  - 観察・報告行動に関係が深く、先行する刺激によってコントロールされる言語行動。
  - 先行刺激(弁別刺激)そのものがタクトされる対象になり、ほめる、関心を向けるなどの社会的な般性強化子が後続する。

## 言語行動の機能的理解がもたらすもの

- トポグラフィーが同じでも、「意味」が変わる。
  - 同じ「水」という言語行動であっても、マンドとして「水」と言える人が、タクトとして「水」と言えるとは限らないということや、同じくマンドとして「水」と言える人が、誰かに「水」とマンドされてその人に水をあげることができるとも限らないことになる。
- 常識からは受け入れがたい事実が見えてくる。
  - 「単語あるいは文自体に意味があるわけではない」「単語あるいは文の意味は、その単語あるいは文を産み出した言語行動とその制御変数である行動随伴性を知ることなしには決定できない」など。

## 公的環境と私的環境



行動 = 「生体の働きのうちで、外界に働きかけたり交渉をもつもの」

## 言語行動と意識

- 3つの意識との対応
  - 覚醒(生物的意識) - 私的出来事は含まない。
  - アウェアネス(知覚・運動的知識) - 刺激に対するタクト(内言化すれば私的出来事:気づき)。
  - リカーシブな意識(自己意識) - 自己の経験に関するタクト(対象も私的出来事:メタ認知的気づき)。
- 「自由意志を持っているという考えは幻想である」
  - 行動は自分にマンドすることによる刺激性制御。
  - 内言としての言語行動(上記のマンド)の制御変数は公的環境内に求められる。

## 言語行動の2つの定義

- スキナーによる言語行動
  - 同じ言語共同体に属する他の成員のオペラント行動を介した強化によって形成・維持されているオペラント行動。そして、他の成員による強化をもたらすオペラント行動は、その言語共同体特有の行動随伴性のもとでオペラント条件づけされたものである。
- 関係フレーム理論による言語行動
  - 出来事または刺激を、3つの基準(相互的内包、複合的内包、刺激機能の変換)に従って、関係づけること。

## 言語行動と外顯的行動の違い

- 認知も行動(言語行動)と見なす。
  - 行動とは、環境との相互作用の中で繰り返される習慣。
  - すなわち、基本的に従属変数として捉えられ、自発的にコントロールできる範囲は狭い。
  - 三項分析の枠内で捉えられ、機能分析の対象になる。
- 外顯的行動と何が違うのか？
  - 環境の中に、公的環境に加えて私的環境が含まれる点が、明らかであること。
  - 言語行動は、行動の機能のみでは説明できない、“象徴性” “生成性” という顕著な特徴を持つこと

## 認知も習慣的行動

Th: ずっと乗っていないから分からないかもしれませんが、今でもほんとに乘れないんですかね。

Cl: 乘れないです。

Th: そうですか。ただ、地下鉄以外だと乗れるんですよ。

Cl: ええ、急行はダメですけど。

Th: ということは、実際に乗ると、最初の時のように苦しくなるのかもしれないけど、地下鉄と聞くだけで、自動的に、「乗れない、絶対無理」って考えてしまう癖になってる、ということもあるんじゃないんですかね。

Cl: ああ、そうかもしれません。

Th: そして、そう考えると、ひどく恐くなって、乗れなくなると。

Cl: その通りです。

## 広場恐怖のEさん

- 41歳、主婦、女性
- 主訴: 地下鉄に乘れない。
- 8年前、地下鉄の中で、気になることを色々と考えているうちに息が苦しくなり、ドキドキしてしまい、次の駅で降りることが何回もあった。それから、乗らなければ大丈夫と考えて、ずっと乗っていない。先日、パニック障害のテレビを見て、カウンセリングで治せるものならと思って来た。
- 何も理由が無いのに苦しくなったことはなく、寝ている時に発作を起こして目を覚ましたこともない。地下鉄以外の各停であれば乗ることはできる。
- 何度か地下鉄に乗ろうとしたことはあったが、その度に、ひどく恐くなり乗れなかった。周りからは練習しないと良くなると言われるが、私が乗れないと思っているのだから、乗れないと思う。

## 言語行動が持つ“象徴性”

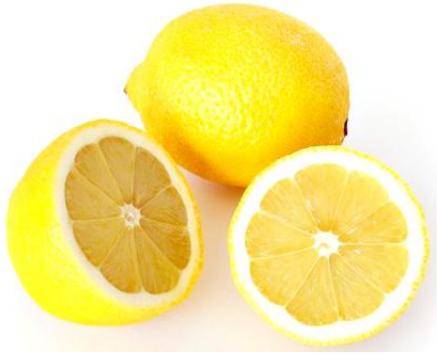
Th: ところで、言葉を使って考えると、それが事実に思えてしまうということがあるんですよ。目を閉じて、今から言う言葉を聞いてみてくださいね。いいですか。「れ・も・ん」。どうですか、レモンが浮かんだでしょう。

Cl: ええ。

Th: こんな風に、言葉にはバーチャルな現実を作り出す力があるんですよ。例えば、文庫本で小説を読むことで、ハラハラ、ドキドキしたり、一度も見たこともない世界で楽しむことができますよね。でも、本を閉じるとその世界はどこにもないでしょう。自分で考えることも同じで、「地下鉄には乗れない」と思うと、立ち尽くしている自分が見えてしまう。以前は確かに具合悪くなることもあったと思いますが、今はほとんどが、単なる癖で考えているとしたら…。そして、癖で考えたとしても、同じことが起こってしまうんです。

# 象徴性 = 『バーチャルな世界』を作り出す力

- 「レモン」と頭の中で言ってみましょう。



浮かんできましたか？

当たり前のこと？

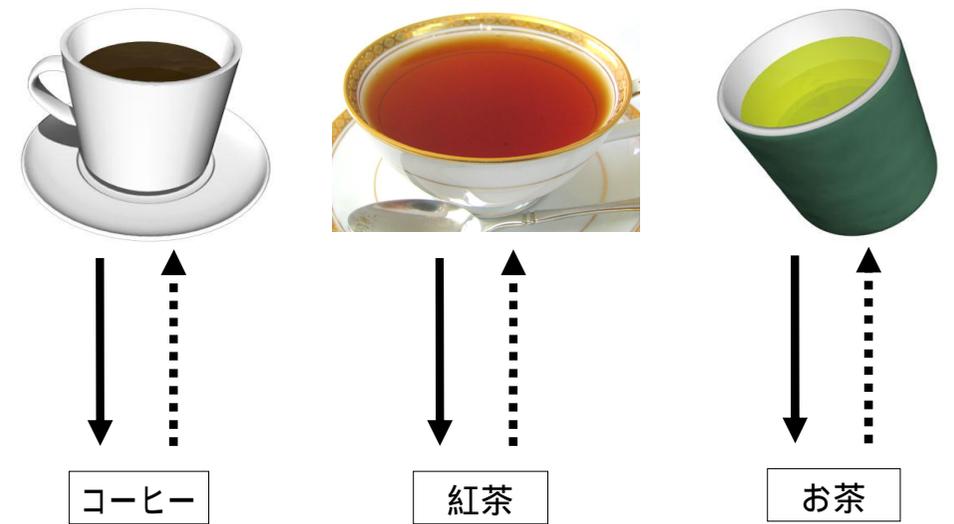
言語の双方向性と言われ  
人間にしかない能力

実は、これを「ランカ」と  
呼ぶことにすると・・・！？  
その音の刺激機能が変わる

# ルール支配行動再び

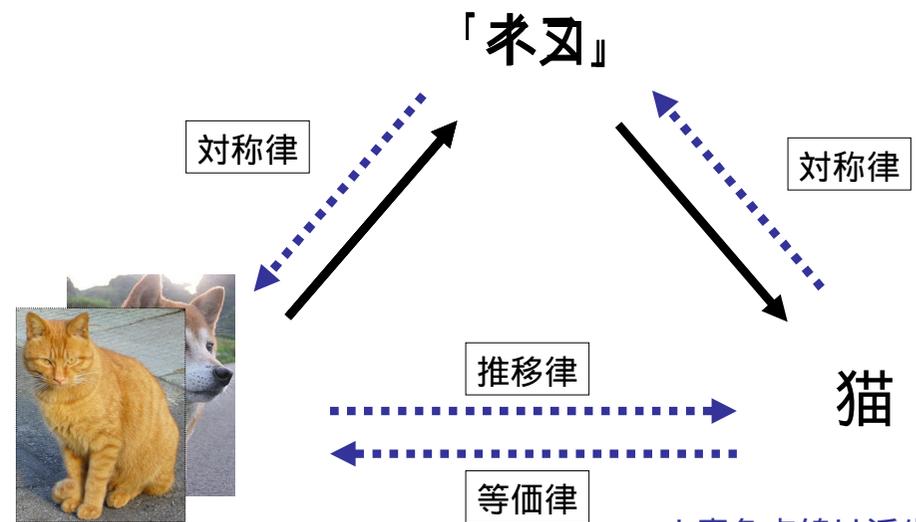
- ルール支配行動は、聞き手の行動であるため、スキナーの言語行動ではない。
- ルールが反応強化子随伴性の有無に関わらず効果を持つという事実は、ルールという言語行動が持つ象徴性に着目して初めて説明可能になる。
- ルール支配行動の種類
  - プライアンス(プライ)
  - トラッキング(トラック)
  - オグメンティング(オグメンタル)

# 言葉と対象の双方向性成立の基盤



\* 点線は派生的関係

# 言語行動が持つ“生成性”



\* 青色点線は派生的関係

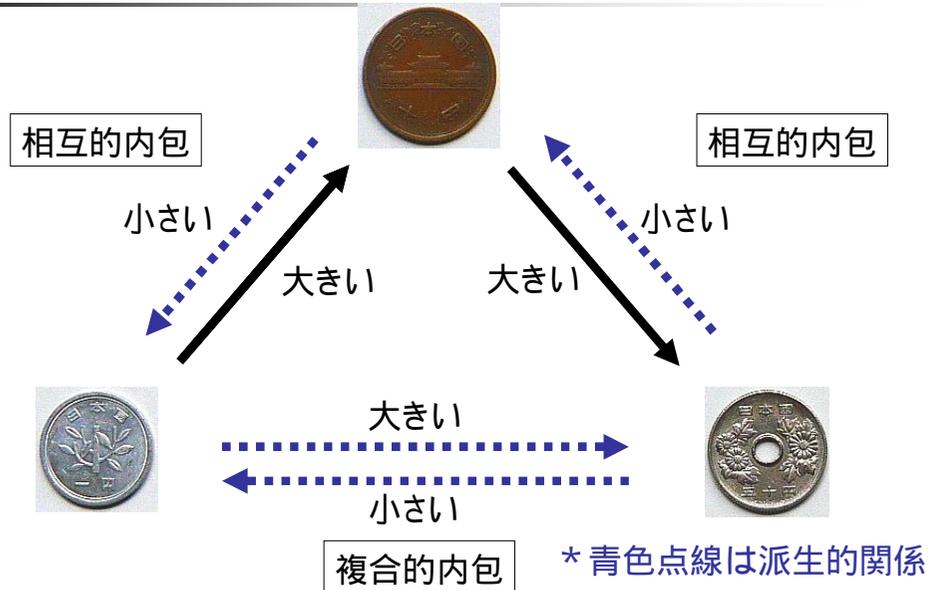
## 関係フレーム理論による言語行動

- 関係フレーム理論における言語行動は、複数の刺激を関係づけ、その刺激の機能を変える行動(関係フレームづけ)と定義される。
  - 結び付けられる刺激は「言葉」である必要はない。
  - 刺激機能の変換によって、意味が発生する( 象徴性)。
  - 相互的内包(対称律)、複合的内包(推移律・等価律)によって、多数かつ多様な派生的関係が成立する( 生成性)。
- 象徴性と生成性は、刺激等価性・関係フレーム理論によって説明可能になる(非常に汎用性の高い行動原理)。
  - 言葉の意味には、文脈と独立に決まる部分があるということ。
  - 言葉が生まれた瞬間から後のことを扱っており、より日常体験に近い言語行動の性質を捉えるのに適している。

## まとめ

- スキナーの定義によって、話し手の言語行動を機能的に捉えることは可能であり、「単語あるいは文自体に意味があるわけではない」という事実が明らかになる。
- それは、まだ言葉が生まれていない段階から、科学的に言葉の成り立ちを捉えようとする際に有用な視点である。
- しかし、日常生活で体験する言葉が意味を持っているという体験的事実や、自分の中にあるルールに大きく影響を受けるといったことが十分に説明できない。
- 関係フレーム理論の定義は、言葉が生まれた瞬間から後のことを扱っており、上記のような体験的事実も説明可能になるため、こちらはより日常体験に近い言語行動の性質を捉えるのに適している。

## 恣意的に適用可能な関係反応( = 言語行動)



## 参考文献

- 熊野宏昭:新世代の認知行動療法. 日本評論社, 2012
- 山本淳一(監修), 武藤崇, 熊野宏昭(監訳), N・トールネケ(著):関係フレーム理論(RFT)をまなぶ - 言語行動理論・ACT入門, 2013